

平成30年度 生活機能向上研修 食支援 Part / 排泄支援 Part 開催報告



東京都健康長寿センター
歯科口腔外科 部長
平野 浩彦氏

平成31年1月12日(土)、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科部長・平野 浩彦氏を講師に迎え「食を支える視点」と題し、研修会を開催。医師36名・多職種87名が参加されました。

在宅診療だけでなく日常の診療で生かせる認知症患者さんへの関わり方について、歯科領域ではFASTによる認知症の評価と関連づけて口腔ケアを実践していることなどを紹介いただき、併せて実際の診療場面をビデオで紹介されるなど、基礎的な概論・エビデンスとケア技術を学ぶことができました。参加後アンケートでは様々な職種が、それぞれに学びがあり「認知症を抱える方への関わりに活かしていきたい」との回答をいただきました。



● 受講者の声 ● (受講後アンケートより抜粋)

● 平野先生の豊富な経験に裏打ちされたご講演に深く感謝し、明日からの認知症患者への対応が変われるものと確信した。そして、口腔が単なる体の入り口ではなく、全身を支える最も重要な部位と確信した。(医師)

● それぞれの認知症とその特徴、パターンを映像とともに説明していただけたので分かりやすかった。摂食のつまづき部分ごとの対応について説明していただけたので実際のケース対応で検討していきたい。実際の映像を見て、口腔ケアの大切さがよく分かった。(管理栄養士)



泌尿器科上田クリニック
院長 上田 朋宏氏



井上医院 院長
井上 亘氏



NPO 法人快適な排尿を
めざす全国ネットの会
理事・山口 昌子氏



全体の様子

平成31年2月9日(土)、京都府医師会館にて、多職種協働で行う排泄に係るケアについて具体的に学ぶことを目的に開催。研修会には、泌尿器科上田クリニック 院長・上田 朋宏氏、井上医院 院長・井上 亘氏、NPO 法人快適な排尿をめざす全国ネットの会 理事・山口 昌子氏、田中 悦子氏、医療法人回生会京都回生病院 看護部主任・白沙 芙美子氏、(株)はいせつ総合研究所むつき庵・平田 亮子氏・大坪 麻理氏にご協力いただきました。医師21名、多職種36名の方が参加されました。



(株)はいせつ総合研究所むつき庵
大坪 麻理氏・平田 亮子氏



グループワークの様子

● 受講者の声 ● (受講後アンケートより抜粋)

● 体験学習により患者さんに対する説明が的確にできると思っています。介護職の方々の意見聞けて良かったです。(医師)

● 医師、訪看、おむつフッターの各視点から排泄について学ぶことができた。(介護職)

平成30年度 研修会予定のご案内

府民公開講座「四万十〜いのちの仕舞い〜」上映会

対象：京都府民の方 入場無料 / 事前申込不要

【と き】2019年3月21日(木・祝) 13:30~16:00(開場13:00)
【ところ】京都府医師会館3階 310会議室 【定 員】300名(先着順)

認知症サポート医フォローアップ研修 [北部会場]

対象：医師、多職種 2018年10月6日(土)開催予定が、台風25号の影響で中止となったため、下記の日程で開催いたします。

【と き】2019年3月23日(土) 14:00~17:00

【ところ】ホテル北野屋(宮津市)

【講師】京都大学医学部附属病院 緩和医療科 京都大学大学院医学研究科人間科学系専攻 准教授 谷向 仁氏

お申込み

京都医報、案内チラシ、Web でお申込み
できます。

Web 申込はこちらから▶



在宅医療に関する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 28

2019年3月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news は奇数月15日の発行です。
※当センターホームページにてバックナンバーが読みいただけます。

Main menu

- ◆ 平成30年度 第3回京都在宅医療戦略会議 開催報告 (P.2)
- ◆ 平成30年度 主治医研修 南部会場 開催報告 (P.2)
- ◆ 平成30年度 第5回・第6回京都在宅医療塾II～実践編～ 開催報告 (P.3)
- ◆ 平成30年度 生活機能向上研修 食支援 Part / 排泄支援 Part 開催報告 (p.4)
- ◆ <在宅医療あれこれ…> (P.3)
- ◆ 研修会予定のご案内 (P.4)

平成30年度 第4回・第5回京都在宅医療塾 I ～探究編～ 開催報告

第4回



堺市立総合医療センター
呼吸器疾患センター長
呼吸器内科 部長
郷間 巖氏

【第4回】 12月16日(日)、堺市立総合医療センター 呼吸器疾患センター長・呼吸器内科部長・郷間 巖氏を講師に迎え「在宅酸素療法の適応と工夫」と題し、研修会を開催。医師61名・看護師38名が参加されました。

郷間氏は在宅酸素療法について、安静時のSpO₂が88%以下で開始するが、個別的状況に合わせた処方方を考え、リハビリにも活かしていくことが重要であるとの考えを述べられ、COPD患者への長期酸素療法の効果を様々なデータをもとにご講演いただきました。その他、慢性心不全への効果についても紹介されました。

さらに、最新の酸素節約デバイスや患者・病態に合わせた処方方の考え方について説明され、使用者のQOLに配慮した携帯型酸素(濃縮)装置についても紹介いただきました。

また、酸素療法中の生活動作で息切れや低酸素に陥りやすいポイントと、動作中に酸素を活用するための指導内容を具体的に説明され、訪問看護を導入することにより生存率が高まるというデータから、在宅療養への具体的な生活指導が患者の療養を支える上で重要であることを示されました。

最後に、事例をもとにグループワークを行い具体的な活用について学びを深めることができました。

参加者からは以下の感想をいただきました。

- 新しいデバイスを教えていただき、勉強になった。(医師)
- 在宅酸素の効果がよく分かり、低酸素の運動や動作別の訪問診療のポイントなど勉強になりました。(医師)
- 呼吸困難を軽減する動作ポイントが具体的に良かったです。グループワークでも医師、看護師それぞれの意見が出たので勉強になりました。(看護師)

第5回



東京ふれあい医療生活協同組合
副理事長 梶原診療所 所長
オレンジほっとクリニック
東京都地域連携型認知症疾患医療センター長
平原 佐斗司氏

【第5回】 平成31年2月17日(日)、東京ふれあい医療生活協同組合 副理事長・梶原診療所 所長・オレンジほっとクリニック地域連携型認知症疾患医療センター長・平原 佐斗司氏を講師に迎え「心不全の緩和ケア」と題し、研修会を開催。医師61名・看護師48名が参加されました。

超高齢者の事例を通して、「意思決定と倫理的課題への対応」「心不全の緩和ケアの実践」について活発な意見交換が行われ、参加者からは以下の感想をいただきました。

- テーマについてグループで討論できたのは良かった。各職種の視点が分かった。(医師)
- 具体的な症状にもとづいてディスカッションをしながら思考できた。(医師)
- 超高齢者にポイントを絞って下さり訪問看護師として、とても分かりやすかったです。事例検討ではとても分かりやすく、色々なジレンマがある中、意思疎通を促していく大切な役割があるのだと改めて痛感しました。(看護師)



第5回全体の様子



第5回グループワークの様子



第5回発表の様子

■ 平成30年度 第3回京都在宅医療戦略会議 開催報告

12月22日(土)に京都府医師会館にて、第3回京都在宅医療戦略会議を開催し、地区医師会より23地区32名の担当理事と京都府・京都市の担当課及び関係8団体にご参加いただきました。



京都府リハビリテーション
三療士会協議会
会長 平山 聡氏

今回は、「京都府リハビリテーション三療士会協議会における在宅医療推進への取組みについて」と題し、京都府リハビリテーション三療士会協議会会長・平山 聡氏より、ご発表いただきました。

京都府下の在宅リハ施設に所属する療士士の割合は全国に比べて低く、二次医療圏別での分布状況では京都市内に集中しているものの、その数も全国平均を下回る状況であると報告されました。

さらに、理学療法士(以下、PTとする)・作業療法士(以下、OTとする)・言語聴覚士(以下、STとする)の在宅(生活期)リハにおける目的・役割を紹介し、平成29年4月25日に三療士相互の協力体制の構築と協同での事業実施を目的として、「京都府リハビリテーション三療士会協議会」を発足したことを報告され、取組みの一例として京都府の委託事業である「京都府リハビリテーション専門職地域人材養成・派遣支援事業」についてご紹介いただきました。

この事業は、地域で活動する療士士の育成を目的に研修会を開催するもので、現時点で養成者は170名(会員全体の4~5%)であり、圏域別にみても地域差がある現状を報告されました。

最後に、在宅リハ現場で従事するPT・OT・STよりかかりつけ医と連携した事例の紹介があり、「今後もかかりつけ医とリハリストスタッフの情報共有と連携を密にして、多職種が協働して在宅リハや地域での活動を行っていききたい」との展望を述べられました。

引き続き、よきき往診クリニック 院長・守上 佳樹氏より、「わが町はどのように在宅医療に取組むのか?」をテーマにご講演いただきました。

在宅医療を推進すべき理由を①病院中心から自宅(地域)中心への流れ、国民の高齢化による医療費問題、②多死の結果、死亡場所の受け皿の問題、③国民の在宅医療ニーズが、もともと高い社会性一の3点から説明され、このような問題を踏まえて現状を少しでも

変えたいと考え、在宅医療に取組んでいると述べられました。

さらに自院の取組みとして、在宅医療は患者や家族の希望に応じた療養生活の選択肢の一つであり、常在在宅医療が選択できるという体制を構築することが重要であるという考えのもと、西京区の在宅医療の最終セーフティネットワークとして稼働し、病院、クリニック、患者間の潤滑油として柔軟に対応を行っていることを紹介されました。

また、在宅医療を推進していく上で多職種連携を強化していくことは重要であり、その実際として、西京口腔サポートセンターを通じた「医科歯科連携」、病院と施設管理栄養士との勉強会「all 西京栄養を考える会」、西京区の薬剤師同士の連携を図る「在宅 DPCH 会」などの活動とともに、情報共有は医療用 SNS「京あんしんネット」を活用し、多面的に連携を図り多職種と協働した在宅医療の体制を整えているとしました。

今後の展開として京都市内が中心ではあるが、在宅医療を推進している若手在宅医師たちとの協力体制の構築に向けて、各在宅医療専門チームで培っている知識や方法を共有するための活動を開始していることも紹介いただきました。

今後の課題として、京都府全体の地域包括ケアシステムの構築に向けて、京都の町・くらし・医療をどのように作っていくかを考えていく必要があること、医療・介護資源の地域差や負担となる夜間休日の臨時往診については、地域の状況に合わせた応需体制の整備など行政を交えて検討していく必要性を訴えられました。

その他、協議事項として、「地域連携型在宅医療サポート病院支援事業について」(京都府)「地域医療構想調整会議の進捗状況」(京都府)について所管行政担当者より説明がなされたほか、地区医師会からの在宅医療に関連した事前質問について府医担当役員より回答し、活発な意見交換が行われました。



よきき往診クリニック
院長 守上 佳樹氏

■ 平成30年度 第5回・第6回京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～ 開催報告

平成31年1月17日(木)、2月20日(水)京都府医師会館5階 京都府医療トレーニングセンターにて、平成30年度京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～を開催し、医師61名(第5回35名、第6回26名)にご参加いただきました。

今回は、「高齢者のスキントラブル」をテーマとして、洛和会音羽リハビリテーション病院 在宅医療支援センター センター長・谷口 洋貴氏より、診療場面で遭遇する皮膚や目・爪の症状から診断につなげるポイントなどをクイズ形式でわかりやすく説明いただきました。

さらに、京都民医連中央病院 皮膚排泄ケア認定看護師・布留川美帆子氏より平成28年度に開催した褥瘡をテーマにした研修会の復習として、再度 DESIGN-R について褥瘡の写真とともに解説いただきました。

訪問看護認定看護師の松久保氏・勝本氏からは、訪問看護師に褥瘡患者のケアを依頼する際の指示



洛和会音羽リハビリテーション
病院 在宅医療支援センター
センター長 谷口 洋貴氏



京都民医連中央病院
皮膚排泄ケア認定看護師
布留川 美帆子氏



書の記載方法や、京あんしんネットを活用した連携事例について紹介いただきました。

実習では、①在宅での褥瘡処置(洗浄のポイント)②褥瘡の貼付剤について(診療報酬の説明も併せて)の2ブースに分かれて実施し、各ブースで活発に質問をいただきました。

地域ケア委員会の副委員長をしている右京医師会の伊藤照明と申します。

前回、西委員長が地域ケア委員会の紹介をされましたので、今回は在宅医療の現場について書かせていただきます。

訪問診療させてもらっている独居患者さんの中には、集団生活ができない・アルコール依存がある・金銭的な問題などにより、入院や施設入所がどうしてもできない方がおられます。老衰や進行がんにより全身衰弱され経口摂取がほとんどできなくなり、予後が数日から数週間の時期になると、最期の療養先を決める必要があります。患者さん本人が「自宅に最期までいたい」意志がはっきりしており、家族を含めた多職種関係者が最期まで自宅で支える覚悟があれば、自宅看取りの方針にします。当院では直近1年間で3人の独居者の自宅看取りがありました。いずれも関係者が訪問した際に心肺停止されており、当院に連絡があり往診し関係者立ち合いのもと死亡確認しました。もちろんご遺体

の外表面、発見状況等の事情を考慮し、異状を認めないことを確認しています。いずれも自宅看取りの経験があり理解のある多職種チームのご協力があり可能でした。中には身寄りがおられず死亡診断書を提出してもらえないご家族がいないこともあり、生前から成年後見人制度を利用しました。

高齢単身世帯数は右肩上がりに増えており(右下図参照)、2015年国勢調査では総世帯数に対する割合が京都府で12%を超えています。この数はさらに増えていくことは間違いなく、すべての高齢単身者が人生の最終章において、病院や施設で過ごすことは不可能です。自宅を最期の療養場所の選択肢として考える必要があります。しかし看取りに慣れていない介護関係者にとっては精神的な負担が大きいのは当然です。右京医師会訪問看護ステーションでは看取りのパンフレットを作成して、ホームページ上で公開しています。各地域で病院以外での看取りを支援できる人材育成をすすめていく必要があります。

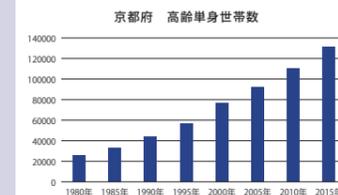
在宅医療あれこれ

— vol.6 —

独居者の看取り



伊藤 照明氏
地域ケア委員会 副委員長
イトウ診療所 院長



■ 平成30年度 主治医研修 南部会場 開催報告

平成31年2月2日(土)、京田辺市商工会館 CIK ビルにて主治医研修会を開催し、医師29名、多職種9名に参加いただきました。研修会では、「脳卒中サバイバーの待ち受けるもの、踏み越えるべきもの」、「話す・食べるを知る」をテーマに京都桂病院 脳神経内科 部長代行・富井 康宏氏にご講演いただくとともに、「介護保険制度における主治医の役割と主治医意見書の記載方法」について、府医理事 小柳津 治樹氏に講義いただきました。



京都府医師会理事
小柳津 治樹氏



京都桂病院 脳神経内科
部長代行 富井 康宏氏